# 令和５年度普及指導活動成果事例

令和６年４月

青森県農林水産政策課

**東青（管轄市町村：青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村）** ページ
1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ 1
2 トマト指定産地の生産力向上 2
3 活力ある農山漁村づくりを目指した女性起業活動の推進 3
4 サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上 4

**中南（管轄市町村：弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、西目屋村、田舎館村）**
1 需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種「はれわたり」の普及拡大 5
2 水田への高収益作物（にんにく）の作付推進 6
3 中南型りんご高密植わい化栽培の導入推進 7
4 中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大 8
5 多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成 9

**三八（管轄市町村：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村）**
1 地域で支える新規就農者の育成・確保 10
2 産地直売組織を支える農山漁村女性の育成 11
3 「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大 12
4 ながいも産地の維持に向けた若手生産者の育成 13
5 にんにく栽培における労働力不足への対応と種苗増殖技術の徹底 14

**西北（管轄市町村：五所川原市、つがる市、鰺ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町）**
1 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産 15
2 スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及 16
3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及 17
4 水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大 18
5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり 19
6 地域を支える農山漁村起業の推進 20

**上北（管轄市町村：十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）**
1 栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化 21
2 ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化 22
3 大豆の安定生産と省力・低コスト技術の導入による収益性の向上 23
4 新規就農者の定着と経営管理能力の強化 24
5 次代に引き継ぐ上北集落営農活性化 25

**下北（管轄市町村：むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村）**
1 新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化 26
2 下北地域を支える新規就農者の経営安定化 27
3 新しい生活様式に対応した「しもきたマルシェ」の確立と販売力の強化 28

# １　「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ
## ～「生産指導カルテ」と「青天ナビ」を活用した重点指導活動～

**【概要】**

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームが生産者や関係機関と情報共有し、各農家が生産目標を達成できるように個別指導を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

**【背景・課題】**

- 全作付者の出荷データを分析する中で、生産目標を下回る生産者が固定化してきていることがわかった。そこで、作付者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」を配布するとともに、生産目標を下回った生産者に対しては、各ほ場ごとの特徴を考慮した栽培方法の改善や気象変動に対応した栽培管理ができるように個別指導する必要があった。

**【普及指導活動の内容】**

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームを通して、各関係機関と連携を強化するための連絡会議を開催し、今年度行う活動内容を決定し意識統一を図った。
- チーム員の追肥指導に当たっての技術統一と今年の管内の生育状況の情報共有のための現地検討会を開催した。検討会終了後、チーム員で各生産者に対して、幼穂形成期以降の栽培管理について指導を行った。特に、今年度は高温で経過したことから、生育ステージが早まっていることをチーム員と生産者全員で共有した。
- 育苗期、追肥時期、稲刈時期に講習会を開催し、各ほ場に応じた栽培管理について指導を行った。特に、今年度は、高温で経過したことから、出穂期が例年になく早く、出穂後も高温で経過したため、適期刈取指導を徹底した。

**【成果】**

- 適切な栽培管理によって全員が、玄米タンパク6.4%以下（出荷基準）となった。
- 適期の刈取が進められた結果、１等米比率が、県平均56%に対して85%となった。

**【対象者】**

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（43名）
青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（3名）
(株)KAWACHO RICE（10名）

東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチームの現地検討会（7/6）

刈取り講習会（8/29）

# ２　トマト指定産地の生産力向上
## ～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

【概要】
- 省力・低コスト化に有効な２本仕立てＵターン誘引栽培の導入支援を行った。
  また、新規作付者や栽培歴の浅い農業者に対しては、主に個別巡回により就農後の経営安定化に向けた技術支援を実施した。

【背景・課題】
- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積が減少している。一方ミニトマトは１戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、どちらも省力・低コスト化が課題となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加しており、栽培者間での技術のバラツキが見られる。

【普及指導活動の内容】
- ２本仕立てＵターン誘引栽培のほ場で栽培講習会を行ったほか、冬期講習会で令和５年の高温障害発生を踏まえ、遮光資材の使用方法や　葉陰遮光による障害軽減対策について指導した。
- トマトでは「りんか409」、ミニトマトでは「サンチェリーピュアプラス」を栽培する生産者が増加したため種苗メーカーと連携し品種特性に応じた栽培管理方法について指導した。
- 自動かん水システム新規導入者や導入歴の浅い生産者に対して個別巡回を実施し、機器運用や保守管理について指導するとともに、新規就農者やシステム導入指向者を対象とした講座を開催し、システムの機器構成・動作機構について指導した。

【成果】
- 令和５年度の２本仕立てＵターン誘引栽培の導入戸数は23戸となった。
- 令和５年度の自動かん水システムの導入戸数は15戸となった。

【対象者】
青森農協トマト部会（80名）
青森農協ミニトマト部会（28名）

農業者を講師とした研修会

収穫時着色管理を確認

種苗メーカーと連携した講習会

# ３　活力ある農山漁村づくりを目指した女性起業活動の推進
## ～農山漁村女性の意欲を生かした地域課題解決～

【概要】
- 現地巡回や聞き取り調査等により、農山漁村女性による起業の活動状況や課題を整理した。
- 課題解決に向けて、事業の活用や個別指導等に取り組み、女性起業の経営力向上を図った。

【背景・課題】
- ベテランの起業組織の中には、食を生かした地域貢献活動に興味を示したり、将来を見据えて、地域の若手女性農業者等に加工技術や事業の継承を望む組織も現れてきている。
- 新規就農者の若手女性の中に、農業経営の一環として、起業活動に関心を示す人が増えてきている。
- 活力ある農山漁村づくりを実現するためには、これらの意欲ある女性農業者に対して、段階に応じた支援を行い、起業活動の充実強化を行う必要がある。

【普及指導活動の内容】
- 県の女性起業を対象とした補助事業を活用した若手女性起業家３名に対し、現状把握と課題整理を行い、今年度目標の達成に向けたフォローアップを行った。
- ＪＡ青森野菜直売所「げんき畑」に対し、「食」に関する地域活動を働きかけた結果、県事業を活用したモデル実証に取り組んだ。
- 女性起業家１名が餅加工の技術継承に意欲を示したため、先輩起業家とのマッチングを行った。

【成果】
- 若手女性起業家３名は、新規事業活用による加工量増や農福連携による作業の効率化、鳥獣害対策による収穫量の確保等により、今年度の目標を達成できた。
- ＪＡ青森「げんき畑」は、消費者の意識調査や伝承会（３回）の開催、郷土料理リーフレットの作成と活用等により、地域での伝承につながった。
- 女性起業と先輩起業家双方の意向を踏まえたマッチングを行った結果、しとぎもちなどの餅加工技術の継承ができた。

【対象者】
農山漁村女性（３４起業）
若手女性農業者（３５名）

食品加工に係る基礎研修

郷土料理伝承会

専門家による事業継承講座

# ４　サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上

【概要】
- 非農家出身の新規就農者等が多い東青管内において、新規就農者が農業を生業として地域に定着できるよう、経営者として必要な知識の早期習得と東青地域の主要品目を主体とした所得確保に向けて、支援を強化する。

【背景・課題】
- 非農家出身者は、生産基盤の脆弱さ、農業経営に対する考えの甘さ等から所得確保に苦戦している。
- 就農希望者に対しては、経営者としての心構えの醸成や就農に向けた助言環境の整備が必要となっている。
- 就農支援体制を強化するとともに就農希望者の能力向上が必要となっている。

【普及指導活動の内容】
- サポート体制の強化に向けて、関係機関等を参集した「東青地域新規就農支援会議」を開催したほか、研修受入農家等を対象にコーチング技術等向上研修会を開催した。
- 就農希望者を対象に営農計画や生活設計の立案方法等の習得を目的とした農業総合セミナーを開催した。
- 新規就農者の能力向上に向け、ねぎ、トマト、ピーマンの指導拠点ほを設置し、栽培対策講座を開催したほか、多様な販売等による農業経営強化を目的に若手農業者向け農業経営スキルアップ研修及び相談会等を開催した。
- 農業青年を対象に農作業安全講習会等のニューファーマー育成講座を開催したほか、随時、就農相談対応や補助事業の活用を支援した。

【成果】
- 関係機関等が一体感を持って支援を行う体制が整った。
- 研修受入農家等の就農希望者とのコミュニケーション能力向上が図られた。
- 新規就農者の栽培技術の向上や知識の習得、仲間づくりが推進された。

【対象者】
- 就農希望者（農業次世代人材投資資金（準備型）交付者7名等）
- 新規就農者（農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付者51名等）

指導拠点ほで説明を聞く新規就農者

コーチング研修会で意見発表する参加者

農作業安全講習会での技術講習

# １　需要に応える「青天の霹靂」の生産と新品種「はれわたり」の普及拡大

## ～「青天の霹靂」の全生産者出荷基準達成と、新品種の本格デビューに向けて～

**【概要】**

- 青森県産米のトップブランド「青天の霹靂」の全生産者の出荷基準達成を目指して、良食味・高品質生産を支援した。
- 新品種「はれわたり」の普及拡大に向けて、品種特性の把握と生産者への周知を図った。

**【背景・課題】**

- 「青天の霹靂」は、実需者や消費者から高い評価を得ており、また、安定した米価が支持され、５年産は過去最大の作付面積となった。作付面積が増加する中、ブランド価値を維持するために、全生産者の高品質・安定生産を図る必要がある。
- ５年産米が全国デビューを迎える新品種「はれわたり」は、生産者への品種特性の周知と、県外生協との取引がある生産部会に対して品種切替えに向けた支援が必要である。

**【普及指導活動の内容】**

- 中南地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（以下PT）では、連絡会議の開催、各品種の生育観測ほの設置、講習会等の開催により、関係機関や生産者と情報共有を図った。
- ４年産「青天の霹靂」出荷基準未達成者に対し、「青天ナビ」を活用した作付ほ場の確認､適切な肥培管理や適期刈取りについて指導した。
- 「はれわたり」の講習会等を通じて、生産部会に対し品種特性の周知に努めた。また、初期生育確保のための育苗資材に係る試験ほを１か所設置し、調査結果をまとめ、部会に提供した。

**【成果】**

- 「青天の霹靂」の出荷基準達成率は昨年を0.7ポイント上回る99.3%、単収は昨年を0.2俵上回る8.9俵と、おおむね目標に到達した。
- 講習会等で「はれわたり」の良食味等の品種特性が理解され、６年産の管内の作付面積は約1,900haと昨年より大幅に増加する見込みとなった。
- ６年産の生産に向けて、PT連絡会議において夏季高温下での技術対策をまとめ、指導方針を確認した。

**【対象名】**

- 中南管内「青天の霹靂」作付経営体（414経営体）
- 新品種「はれわたり」作付農家（275人）
- ＪＡ津軽みらいときわ良質米生産部会（213人）

適期追肥講習会（7/5）

適期刈取講習会（8/31）

第７回連絡会議（2/6）

## ２　水田への高収益作物（にんにく）の作付推進

～スマート農業による軽労化と、新品種「青森福雪」のデビューに向けて ～

【概要】
- ほ場整備地区における高収益作物としてにんにくの作付拡大により、効率的な営農・経営の達成を目指した。
- 新品種「青森福雪」の普及拡大に向けて、品種特性の把握と生産者への周知を図った。

【背景・課題】
- 中南地域はりんごと稲作主体の農業構造となっており、平地は水田地帯であるが、収益性の高い野菜等の作付は労働力不足等から近年、減少傾向にある。
- 管内では各地区でほ場整備が進められており、ほ場整備実施地区では、農業者の収益確保のため高収益作物の導入が求められている。
- ほ場整備地区等において、にんにく及び転作野菜の作付推進に取組む必要がある。

【普及指導活動の内容】
- 野菜の安定生産に向け、栽培講習会や巡回等により栽培指導を行った。
- また、県育成のにんにく新品種「青森福雪」の実証ほを設置し、品種展示及び特性把握に努めた。
- 軽労化や省力化に向けたスマート農業研修会を開催した。
- ほ場整備地区（三省地区）での生育状況の把握と栽培指導を行った。
- にんにくのさび病が多発したため、部会に対して初期防除の重要性を周知し、防除技術の理解に努めた。

【成果】
- ほ場整備地区（三省地区）でのにんにく新規作付けが50ａ開始された。
- 令和５年９月に新品種「青森福雪」実証ほをJA津軽みらいとJAつがる弘前管内に設置した。
- スマート農業への理解が高まり、アシストスーツによる軽労化とドローン散布による時短効果を周知できた。

【対象名】
- ＪＡ津軽みらいときわにんにく部会（107人）
- ＪＡつがる弘前にんにく部会（57人）
- ほ場整備地区農業者

三省地区での営農状況（9/12）

スマート農業研修会（6/4）

ドローンによる薬剤散布（6/4）

# ３　中南型りんご高密植わい化栽培の導入推進

## ～１年生ノンフェザー苗を利用した高密植わい化栽培の導入推進支援～

**【概要】**

- 本県のりんご高密植わい化栽培技術確立に向け、現地モデル園を設置し栽培管理等の調査を行った。
- 栽培技術の早期普及に向け、関係機関・団体と連携し研究会を発足させ、栽培技術研修会等を開催して、情報共有を図った。

**【背景・課題】**

- 高密植わい化栽培の円滑な導入を支援するため、高品質安定生産技術の確立と早期普及を図る必要がある。
- 苗木不足の解消に向けた１年生ノンフェザー苗での高密植わい化栽培の技術を実証する必要がある。

**【普及指導活動の内容】**

- りんご研究所及び現地にモデル園を設置し、栽培管理等の調査を行った。
- 関係機関を構成員とする「中南地域高密植わい化栽培推進研究会」を発足させ、高密植わい化栽培導入者への支援体制の強化と栽培管理等の情報共有を図った。
- 高密植わい化栽培の先進地である長野県に視察を行い、最新情報を収集した。

**【成果】**

- 「中南地域高密植わい化栽培推進研究会」を２回開催し、現地モデル園の調査結果等の報告や次年度計画について検討した。
- 生産者及び指導者向け栽培技術研修会を３回開催し、高密植わい化栽培の県内外の試験状況や１年生ノンフェザー苗の夏場の栽培管理等を情報共有した。
- 長野県の３園地を視察し、最新情報を入手するとともに、マニュアルの必要性を再確認した。

**【対象者】**

- 平川市密植栽培研究会（38人）
- 中南管内のりんご高密植わい化栽培生産者（46人・法人）
- 導入予定生産者

１年生ノンフェザー苗の現地モデル園

栽培技術研修会

先進地視察研修（長野県）

# ４　中南地域の果樹経営に適した特産果樹の生産拡大
## ～シャインマスカット・ジュノハートの高品質果実生産の推進～

**【概要】**
- 関係機関・団体と連携して、ぶどう「シャインマスカット」及びおうとう「ジュノハート」の基本的生産技術の習得等に向けた活動を行い、高品質果実の安定生産を図った。

**【背景・課題】**
- 近年、シャインマスカットの新規作付者が増加しているため、無核処理等の基本技術の普及が急務である。
- ジュノハートは県がブランド化を進めているため、県のブランド化推進協議会が設定した品質基準や出荷規格を周知徹底し、高品質大玉生産を推進する必要がある。

**【普及指導活動の内容】**
- シャインマスカットは、講習会や巡回により基本技術の周知を図った。また、優良園地での初期生育について調査し、結果を指導の参考とした。さらに、生産販売情報連絡会議を開催し、生産・販売状況や今後の課題等について関係機関と情報交換し、果実品質の向上に向けた意識を統一した。
- ジュノハートは、生育観測ほを設置して生育ステージや着果状況を確認するとともに、農協等と連携して目揃い会や個別指導で生産者に出荷を呼びかけた。

**【成果】**
- シャインマスカットは、開花時期が揃わず無核処理時期の見極めが難しかったことや、開花期の強風等により形状が不良な果房（バラ房）が目立ったことなどから、出荷量は前年の45トンから43.8トンに減少したものの、令和４年度までは順調に増加してきている。
- ジュノハートは、適期収穫と出荷規格の徹底を生産者に強く呼びかけながら出荷を促したところ、７人の登録生産者が出荷し、出荷量は前年の64kgから128kgに増加した。

**【対象名】**
- 弘果シャインマスカット作付者(293人)
- ＪＡぶどう生産者協議会（中南地区97人）
- おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者（18人）

シャインマスカット現地講習会

シャインマスカットの果実品質調査

「ジュノハート」結実状況

# ５　多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成
## ～地域活性化に向けた女性農業者の新たな取組への支援～

**【概要】**

- 地域の活性化を図るため、女性起業家等を対象にセミナー開催や個別指導を行ったほか、「農のふれカフェ」実践者を対象に情報交換会等を行った。また、女性起業組織の地域共生社会の実現に向けた活動について支援した。

**【背景・課題】**

- 女性起業家は、新商品開発や新たなサービスの提供等による取組拡大が課題となっている。
- 女性起業家の高齢化に伴う後継者育成や事業継承、若手女性農業者の起業開始に向けた支援等により、起業活動に取り組む女性農業者を育成する必要がある。

**【普及指導活動の内容】**

- 農産加工や農家民宿、カフェ運営等の充実強化、りんごセミドライの技術習得、事業や技術の継承などに向けたセミナーを開催したほか、新商品開発や新たな起業化に向けて個別に支援した。
- 「農のふれカフェ」の体験メニューの開発等に向けて、情報交換会や研修の開催、個別巡回を行い、実践に向けた支援を行った。
- 女性起業組織による地域の「食」を活かした地域課題解決の取組を支援した。

**【成果】**

- 新たに加工品３品が商品化され、直売所等での販売を開始したほか、農産加工や販売に取り組む若手女性農業者を新たに３人掘り起こした。
- 本格的な起業を目指す若手女性１人が補助事業を活用し、委託加工による加工品開発に取り組み、試験販売を開始した。
- 女性起業組織１組織が高齢者と地域住民との交流の場づくりに取り組み、高齢者支援活動の意欲が向上した。

**【対象者】**

女性起業家（48人・組織）
起業活動に関心のある女性農業者（20人）
「農のふれカフェ」実践者（11人）

りんごセミドライの加工実習

りんご加工品をＰＲする若手女性

女性起業組織が開催した
高齢者と地域住民との交流会

# １　地域で支える新規就農者の育成・確保

【概要】
- 新規就農者の育成確保と地域への定着に向け、地域ぐるみの支援体制づくり、農作物の基礎知識や栽培技術、経営管理手法等の習得による所得向上及び新規就農者のネットワークづくり等の支援を行った。

【背景・課題】
- 管内の新規就農者の約７割が非農家出身で、身近な者から農業の基礎的な知識・技術を学ぶことができない場合が多い。
- 市町村との情報共有を図りながら、支援方向を検討し、地域の実情に即した対策を講じて、非農家出身を含む新規就農者の経営安定化を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】
- 管内の指導農業士会、ＶｉＣ・ウーマンの会、４Ｈクラブ、市町村、農協等を参集し、新規就農希望者に係る研修受入体制の整備等について意見交換した。
- 「ＷＥＢマーケティング」、「土づくりと肥料」に係る新規就農者フォローアップセミナーを開催し、販売ノウハウや栽培技術の習得を支援した。
- 新規就農者のほ場４か所（ミニトマト、ねぎ、香味野菜、さつまいも）に収益力アップチャレンジ農場を設置し、栽培技術の向上を支援した。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」の開催により、消費者のほか新規就農者同士の交流を勧めた。

【成果】
- 昨年度確保した農業研修受入先において、新たに２名の新規就農希望者が研修を開始した。また、農業研修受入先のリストを作成し、新規就農希望者へ情報提供できる体制が整った。
- 収益力アップチャレンジ農場の受託者が栽培技術上の課題解決策を自ら検討し、実践することで、技術向上に主体的に取り組み、成果をとりまとめ発表できた。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」を３回開催したほか、南部町出身の実行委員が町役場と連携し、地元でも新たなマルシェを開催するなど地域内に取組が波及している。

【対象名】
新規就農者育成総合対策（経営開始資金、旧農業次世代人材投資事業）交付対象者（40名）、同交付終了者（160名）、新規就農希望者（17人）

フォローアップセミナー（１／31）

収益力アップチャレンジ農場
現地研修会（８／21）

さんぱちファーマーズマルシェ
（７／９）

## ２　産地直売組織を支える農山漁村女性の育成

**【概要】**

- 農山漁村女性の育成に向けて、女性起業者等を対象とした郷土料理の技術伝承講習会の開催や、新郷村役場や地域団体と連携した「食を生かした地域活動」への取組を支援した。さらに、産直組織を対象に、産直の販売額向上に向けた各種法制度への対応や販売力強化に向けた研修会等を開催した。

**【背景・課題】**

- 産直組織では、会員の高齢化により郷土料理の加工及び販売に取り組む女性起業者数が減少し、品不足が課題となっている。さらに後継者不足により加工技術が継承されず、郷土料理の存続が危うい。
- 郷土料理の技術伝承や産直組織の販売力及び機能強化への支援を通じて、産直組織を支える人材を育成する必要がある。

**【普及指導活動の内容】**

- 若手女性起業者等を対象に、「せんべいおこわ」や「よもぎだんご」等の郷土料理の技術伝承研修会を開催した。
- 先輩女性起業者と若手女性起業者によるマッチングを実施し、切り餅加工の技術指導と事業継承の情報を交換した。
- 新郷村若手女性４名による「子育て農業女子の会」の組織化と、同会が行う地域の「食」を活用したモデル実証活動を支援した。
- 産直組織の資質向上に向けて、新食品衛生法に沿った漬物加工に係る保健所の講義と、先進事例の視察研修を行った。

**【成果】**

- 研修会に参加し学んだ加工技術を磨き、イベントや産直で「せんべいおこわ」や「よもぎだんご」を販売した若手女性起業者もおり、技術の伝承につながった。
- 女性組織による「食を生かした地域活動」では、地元農産物を活用した「親子マルシェ」や「親子カフェ」を開催したほか、この活動を実施の都度ＳＮＳで情報発信すること等にも取り組んだことで、地域内の子育て世代の交流が促進され、新たなコミュニティが形成された。
- 産直組織については、新食品衛生法に対応した漬物加工の知識を習得でき、令和６年６月からの加工販売体制の整備が進んだ。

**【対象名】**

三八産直ネットワーク(15組織)、管内女性起業者(38件)、若手女性起業者(15件)

郷土の味を伝え継ぐ技術伝承研修会
（12／15）

「子育て農業女子の会」親子マルシェ
（10／８）

三八産直ネットワークの視察研修
（９／６）

# ３　「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大

**【概要】**

- 「ジュノハート」のブランド化に向けて、講習会や巡回指導等により栽培技術の普及や出荷規格の遵守に取り組んだ。着色不良や変形果等がみられたが、概ね生育状況に応じた適正管理が行われ、八戸農協及び南部市場の出荷量は前年を上回った。

**【背景・課題】**

- 「ジュノハート」は、ブランド化推進協議会の戦略に基づきブランド化が進められており、令和２年に県外販売が開始され、良品生産の拡大が必要である。
- 若木が多く生産量が増加していくので、栽培技術の普及が必要であり、着色不良や障害果等の対策が求められている。
- 出荷規格が一部で守られていないので、規格の周知と遵守が必要である。

**【普及指導活動の内容】**

- 関係機関と連携し、講習会開催（４～６月、４回）や生産情報発行（４～６月、３回）により、適期管理指導や出荷規格の周知を行った。
- 生育観測ほを５園地に設置し、調査データを講習会等で活用した。
- 良品生産と出荷規格遵守に向けて、昨年リストアップした生産者に対して、４～５月に農協及び南部市場と一緒に個別巡回指導を行った。
- 雨よけ被覆が困難となってきていることから、簡易巻取り装置を設置したハウス１か所を展示ほとして設置し、被覆時間等を調査した。
- 来年産の良品生産と適正出荷に向けて、３月に生産・出荷研修会を開催した。

**【成果】**

- 結実は概ね良好な中、核割れによる変形果や、高温の影響で着色が遅れた園地が多かったが、概ね生育状況に応じた適正管理が行われた。
- 系統出荷は31名（前年27名）で出荷量947kg（同408kg）、南部市場は52名（同41名）で出荷量714kg（同265kg）であった。

**【対象名】**

おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者　148名

栽培講習会（４月）

適期収穫研修会（６月）

結実良好

# ４　ながいも産地の維持に向けた若手生産者の育成

【概要】
- 三八地域ながいも担い手育成塾研修会では、催芽切いも栽培の先進事例や達人の技術を学ぶ研修により、塾生が達人技術を実践したり、研修内容に対する前向きな意見があった。また、「チェックシート」の活用により個別の生産技術の状況確認と改善を促した。

【背景・課題】
- ながいも産地を維持していくためには、担い手となる若手生産者の育成が重要である。
- 若手研究会会員を対象に行ったアンケート調査（令和２年度実施）では、栽培面の課題として品質の向上、収量の安定化が挙げられており、基本技術の徹底と種苗更新の意識付け、個々の生産技術のレベルアップが不可欠である。

【普及指導活動の内容】
- 第１回研修は、4/24にＪＡ十和田おいらせライスセンターで、ＪＡ十和田おいらせ七戸支店における催芽切いもの処理方法を研修した。
- 第２回研修は、8/30に中里徳支氏のほ場で、達人の技術（種いも生産、排水対策、緑肥の使い方等）を研修した。
- 第３回目研修は、2/2に寺澤和夫氏と中里徳支氏の作業場で、種子選別等の技術を研修した。

【成果】
- 第１回研修では、３名が参加し、いも洗浄の程度や洗浄後速やかに消毒を行うこと、切いものコンテナへの詰め方など具体的な作業手順を理解した様子であった。
- 第２回研修では、７名が参加し、２年子生産に関する質問（使用する種いも重、切片子の作製、消毒方法）があり、自身の種いも生産と比較して、達人が行う作業の目的、技術のポイントを学び取ろうとする姿勢が見られた。また、緑肥の使い方について、達人技術の実践意思を示した会員がいたほか、昨年度緑肥の使い方を聞き、今年度から実践している会員が１名いた。
- 第３回研修では、14名が参加し、達人の種子選別技術を学び、「生産技術チェックシート」により、自己の栽培技術の診断と改善を促した。

【対象名】
八戸農協野菜総合部会
ながいも専門部
ながいも若手研究会（48名）

第１回研修（七戸）

第２回研修（中里氏ほ場）

第３回研修（寺澤氏作業場）

# ５　にんにく栽培における労働力不足への対応と種苗増殖技術の徹底

【概要】
- にんにくの生産性改善に向けた専用ほ場設置による種苗増殖について、研修会開催などにより重要性について生産者の理解を進めることができた。また、生産上の課題である労働力不足に対応するため、１条掘収穫機の実演会を開催したところ、中山間地に適した省力化技術に高い関心を集めた。

【背景・課題】
- 低下傾向となっている単収の改善に向け、種苗増殖技術の向上が課題となっている。
- 現状、労働力不足が深刻な「収穫」と「植付け」の省力化が課題である。

【普及指導活動の内容】
- 若手生産者を対象に、種苗増殖専用ほ場の設置及び管理技術等に関する「三八地域にんにく種苗増殖技術研修会」を開催した。
- 優良種苗の導入と種苗増殖専用ほ場設置について、栽培講習会等で継続的に指導した。
- 収穫作業の労働力不足解消に資するため、中山間地が多い三八管内の実情も考慮した「収穫機実演会」を開催した。

【成果】
- 種苗増殖技術研修会を5/19に野菜研究所で開催したところ、20名が参加し、ポイントとなるウイルス株の抜き取りや害虫防除などについて理解を深めることができた。また、研修後のアンケートで、優良種苗未導入と回答した10名中９名は、今後の導入に意欲的であり、また、現状で種苗増殖専用ほ場未設置と回答した５名は全員、今後設置したいと回答するなど、種苗増殖技術の重要性が理解された。
- 種苗増殖専用ほ場未設置者に向けた継続指導により、若手生産者を中心に理解が進んでいる。
- １条掘収穫機による収穫実演では、補助作業者の人数が４条掘収穫機等に比べて少なく、収穫物のコンテナを運搬用の軽トラ等へ載せ替えやすいことや、傾斜地のほ場でも収穫できることなどを紹介し、参加者の関心を集めた。

【対象名】
八戸農業協同組合にんにく専門部
五戸支部西部（157名）
田子支部（126名）

種苗増殖技術研修会（5/19）

栽培講習会（６月）

収穫機実演会（6/13）

# １　品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産　～消費者から信頼される米づくりの支援～

【概要】
- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核に、「青天の霹靂」は良食味・安定生産、「はれわたり」は品種特性の普及について、生産指導に取り組んだ。

【背景・課題】
- 「青天の霹靂」は、栽培のポイントが浸透しつつあるが、出荷基準を達成できなかった作付者や新規作付者に対して重点指導により、品質の底上げを図る必要がある。
- 令和５年産から本格作付となる新品種「はれわたり」は、作付者に対して栽培の要点を指導し、スムーズな普及拡大につなげる必要がある。

【普及指導活動の内容】
- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（以下PT）では、指導拠点ほの設置、夏季現地巡回、現地講習会等の開催により関係機関や生産者と情報共有を図った。
- 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、適切な肥培管理について個別指導を行った。また、「青天ナビ」を活用し、適期追肥・適期刈取を指導した。
- 「はれわたり」指導拠点ほ担当農家に対して、品種特性に応じた栽培管理を指導した。また、指導拠点ほを活用した研修会で、生産者に対して品種特性を周知した。

【成果】
- 「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率は100％で、目標の90％を上回った。また、前年出荷基準未達者20名のうち、合格者は19名で全員合格とはならなかった。
- 「はれわたり」指導拠点ほ８地点の高品質・安定生産達成率（一等米、かつ単収600kg/10a）は、高温の影響により品質未達が８地点、単収未達が２件で、目標を大きく下回った。

【対象者】
- 「青天の霹靂」新規作付者（９名）及び前年産出荷基準未達者（21名）
- 管内「はれわたり」作付者（387名）

指導拠点ほでの個別指導(6/20)

ＰＴによる夏季現地巡回（8/28）

「青天の霹靂」適期刈取講習会（9/5）

# ２　スマート農業を活用した大規模稲作省力・低コスト技術の普及

## ～大規模経営体の育成に向けたスマート農業の推進～

**【概要】**

- 労働力不足の中で水田農業の担い手が規模拡大に対応できるよう、スマート農業技術の導入による省力・低コスト化の実証・普及に取り組んだ。

**【背景・課題】**

- 稲作経営の担い手は、今後、更なる規模拡大が見込まれ、労働力不足への対応や生産コストの低減が課題となっている。
- 整備が進んだ大区画ほ場や高精度の位置情報を得られるRTK-GNSS基地局を利用し、スマート農業一貫作業体系の検証やスマート農業機械の導入による省力・低コスト技術を普及する必要がある。

**【普及指導活動の内容】**

- 管内の関係機関、生産者で構成する西北型水田農業推進協議会において、スマート農業の導入戦略づくりをリードした。
- 大規模経営体のスマート農業一貫作業体系の実践データ収集と寒冷地における稲作省力・安定多収技術の実証に取り組んだ。
- ロボットトラクタの汎用性や効果的な利用を周知するため、自動操舵による大豆のは種及び中耕の作業性の実証と実演会を開催した。
- 先進事例として、新潟県の農業データを活用した営農体系の取組について調査を実施した。

**【成果】**

- 「西北地域の水田農業における『スマート農業』と『高収益作物』導入戦略」を策定し、今後の取組方向や推進体制が明確になった。
- 大規模実践モデルにおいて、省力・低コスト技術の組合せにより作業時間短縮と作業人員削減が可能なことを明らかにした。
- 自動操舵において通信障害が発生する新たな課題を確認し、作業精度が落ちた場合の対応方法を実証することができた。
- 実演会・研修会の参加者は延べ127名で、自動化農機の効果的な利用方法(RTK基地局の利用など)について理解が深まった。

**【対象者】**

・(株)十三湖ファーム
・津軽米づくりネットワーク(45名)
・五所川原広域水田フル活用推進協議会（28名）

ロボットトラクタによる大豆は種実演会(6/5)

自動操舵による大豆中耕作業の実証(7/5)

スマート農業研修会(1/26)

# ３　中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及
## ～省力化技術の実証による取組みの拡大～

**【概要】**

- 水稲単一経営が多く、米価下落の影響を大きく受ける津軽北部地域の農業者を対象に、ブロッコリーやとうもろこしの普及展示ほを活用し省力化技術の実証やほ場整備組合との情報交換会の開催等により、複合経営の普及拡大に取り組んだ。

**【背景・課題】**

・津軽北部地域では、水稲栽培の依存度が高く、水田へ野菜を導入する際の作業時間や収益性に不安があることにより、複合経営の取組みが少ない。このため「水稲＋高収益作物」の普及展示ほを設置し、省力化技術の実証を行うとともに、作業時間や収益性、実践事例の周知など普及拡大に向けた支援を行う必要がある。

**【普及指導活動の内容】**

- 「西北型水田農業推進協議会」で野菜導入戦略目標達成のためのロードマップを示し、段階的に導入や定着を促すこととした。
- 普及展示ほ（「水稲＋ブロッコリー」、「水稲＋とうもろこし」）で、現地検討会を開催（6/16、25名）し、作付体系の検討を行った。
- 普及展示ほで実演会(8/18、81名）を開催し、ドローンでの薬剤散布や、自動操舵付きトラクターとアップカットロータリーによる等間隔なうね立て作業で省力化や安定生産を検討した。
- 令和５年度からほ場整備工事が始まった中泊町の３つのほ場整備組合の代表農業者や関係機関等と、次年度以降の作付計画や労力確保などについて情報交換を行い、体制づくりを検討した。
- 野菜導入セミナーを開催し（2/6、104名）、普及展示ほの実証試験結果や他県の優良事例、露地野菜のスマート農業の現状報告等を紹介することで、水田への野菜導入を働きかけた。

**【成果】**

- 水稲への野菜導入に向けた意識啓発により、中泊町の野菜導入経営体数が１１戸から１４戸に増加（ブロッコリー、にんにくを導入）した。

**【対象名】**

- 中泊町の中小規模稲作経営体(101戸）、新規就農者

とうもろこし畑でのドローン薬剤散布実演(8/18)

高収益野菜導入に係る打合せ（11/1）

水田への野菜セミナー（2/6）

# ４　水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大
## ～基本技術の習得による高収益作物の導入促進～

**【概要】**

- 水稲と高収益作物の複合経営の確立を目指している中泊町において、水稲育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」栽培の拡大に向け、生産者間や関係機関の連携強化と地域の先進事例の成果を活かした技術支援に取り組んだ。

**【背景・課題】**

・西北地域では、水稲と高収益作物の組合せによる安定した複合経営の確立を目指し、育苗ハウスを活用したシャインマスカットの導入が進んでいる。
・対象の中泊町では、稲作経営が主体で、ぶどうの栽培経験のある生産者が少なく、栽培知識が不足しており、市場等、果樹の関係機関との連携も弱い。
・このため、各関係機関の連携強化と情報の共有化、ハウス栽培での基本技術の習得に向けた支援が必要であった。

**【普及指導活動の内容】**

・ハウスシャインマスカット栽培の拡大に向け、講習会の会場見直しや開催時期の見直しを行うことで、苗木～若木期の管理についてイメージしやすくなり、ハウス栽培の基本技術の理解度が向上した。
・花穂整形、無核処理、摘粒、剪定など主要作業に合わせた栽培講習会を開催し、管理の目的や作業適期、作業内容について実演しながら指導を行った。
・生育のバラツキが大きい年だったことから、無核処理や摘粒作業の適期の周知、講習会だけでは説明しにくい苗木の管理や樹の仕立て方など巡回による栽培技術の指導を行った。
・適期栽培管理を普及するための展示ほを、町内で高品質な果房を生産している生産者のほ場１か所に設置した。

**【成果】**

- 役場や産地市場などの関係機関と連携して支援を行ったことで、協議会や講習会において生産者間の情報交換や連携強化が進むとともに、講習会や個別指導を通して、適期栽培管理の必要性について理解が進み、新規作付者にもハウス栽培の基本技術が定着し始めた。

**【対象名】**

中泊町シャインマスカット生産者協議会（27名）

栽培講習会（12/19）

展示ほ内のシャインマスカット（9/22）

育苗ハウス内のシャインマスカット

# ５　地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり
## ～継続的な地域活動支援～

【概要】
　各市町の担い手育成総合支援協議会等と連携して地域経営体の育成及びレベルアップに取り組むとともに、五所川原市三好地区の共助・共存の農山漁村づくりに向けて結成された「三好をあじあう会」の支援に取り組んだ。

【背景・課題】
・管内の地域経営体の取り組みの高度化を図っていく必要がある。
・農村地域の少子高齢化等の課題解決にむけ、地域運営組織「三好をあじあう会」の活動支援が必要である。

【普及指導活動の内容】
・西北管内担い手育成総合支援協議会等と連携し、地域経営体の育成、共助・共存に向けた集落の意識醸成、地域資源の発掘・活用等に対する取組を支援した。
・五所川原市の地域経営体（有）青い森物産が地元食材料理レシピを開発し、お披露目会やSNS等での発信を支援した。
・金木観光物産館「産直メロス」出荷者友の会が、商品開発を行いお披露目会を開くのを支援した。
・地域運営組織「三好をあじあう会」が「野菜づくり体験」等のイベントを開催する際、会の自立を促すよう技術的・事務的な支援をした。

【成果】
・１経営体がレベル３にレベルアップした。また、管内の地域経営体数は125経営体となり地域経営の取組が強化された。
・地域経営体（有限会社　青い森物産）の取組を受け、情報の発信や三好地区のコミュニティに進展が見られた。また、産直メロス出荷者友の会は、産直メロスならではの商品を開発し、２月にお披露目会を開き、友の会の活動を内外に示すことができた。
・「三好をあじあう会」が主体となって農業研修、獅子舞交流会を企画し、住民らは三好の魅力を再認識し、さらにSNS等を通じて発信することができた。

【対象者】
管内の地域経営体(125経営体)
及び地域経営体候補（53経営体）
共助・共存の農山漁村づくりモデル地区
（五所川原市三好地区住民）

野菜づくり体験（7/16）

料理レシピ発表（11/19）

獅子舞交流会(12/3)

# ６　地域を支える農山漁村起業の推進
## ～女性起業家の経営発展と地域課題解活動への支援～

**【概要】**

女性起業家の経営力向上とともに、地域活動をリードする女性起業家の育成と地域貢献活動の確立に向けた支援に取り組んだ。

**【背景・課題】**

・西北管内の農山漁村女性による起業活動は、産直の魅力向上、情報発信などで地域全体の活性化につながるほか、女性の社会参画、地域貢献にも寄与している。
・各組織では高齢化対策、魅力ある商品や体験メニューづくり、起業初期の収益確保など、段階に応じた支援が必要となっている。
・人口減少が進む中で、地域において様々な共助の仕組みづくりが急務となっていることから、高齢者の交流の場づくりや「食」を活かした地域貢献活動を展開できる起業家の育成が必要である。

**【普及指導活動の内容】**

・女性起業活動の実態調査を行い、個々の課題や今後の支援策を整理した。
・漬物加工をテーマに、先進事例と営業許可制度等を学ぶ講座を開催し、女性起業家の経営力向上を図った。また、新たな取組開始に向けて、試験研究機関と連携した技術指導や補助事業の活用、事例紹介などの個別指導を行った。
・郷土料理を活かした地域活動に関心のある女性起業家や若手農業者が、料理技術を学ぶ研修会を開催したほか、地域課題の解決に取り組もうとする女性起業家に対して、住民の交流促進などの地域貢献活動の運営支援を行った。

**【成果】**

・女性起業家への支援により、３件の女性起業家が、それぞれ新商品の開発、直売活動の開始など新たな取組を開始した。
・また、地域人材を活用した多世代交流イベントや共同調理とスポーツによる住民交流イベントを行うなど地域貢献活動に２件の女性起業家が取り組んだ。

**【対象者】**

西北管内農山漁村女性起業家(67経営体)
＜加工販売活動、産直活動、グリーン・ツーリズム実践者等＞、
起業活動に関心のある女性農業者

郷土料理を学ぶ女性起業家（9/12）

共同調理で住民が交流（若山地域　10/20）

漬物加工をテーマに開催した講座（12/14）

# １　栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化

【概要】
- ＪＡやながいもの達人と連携した栽培講習会の実施により、ながいも栽培の基本技術の徹底を支援した。また、ながいもカルテの情報分析により収量・品質がＪＡ平均を下回っている農家を対象に、生産技術チェックシートを活用した個別指導を実施し、栽培管理の改善を促した。

【背景・課題】
- 指導対象①のながいもの平均販売単収はＪＡ平均より高いが、Ａ・Ｂ品率が低いことから、基本技術の徹底による品質向上が必要である。
- 指導対象②は産地をけん引していく生産者であることから、研修受講やながいもカルテに基づく指導により栽培技術の向上を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】
- 前年の大雨の影響で、種いもが不足している生産者が多かったことから、切いも利用における切り方、保管方法等について講習会を実施した。（対象①）
- ＪＡと連携して、現地講習会や坪掘り調査を実施したほか、講習会等においてながいもの達人から指導助言を得るなどして、技術力の向上を図った。（対象①、②）
- ながいもカルテで収量・品質がＪＡ平均を下回った塾生に対し、生産技術チェックシートを活用して個別指導を実施した。（対象②）

【成果】
- 種用のいもの洗浄方法や切り方、消石灰の粉衣方法、キュアリング時の管理など活発に質疑応答がなされ、切いも栽培への理解が深まった。（対象①）
- ながいもの達人のほ場で行った現地講習会等により、天候に応じた追肥や、効果的な病害虫防除方法について理解された。（対象①、②）
- 個別指導の結果、輪作計画の作成や植付け時期、種いも重、覆土深、肥培管理、排水対策等を改善するなど技術向上につながった。（対象②）

【対象者】
①ＪＡ十和田おいらせ野菜振興会
　ながいも専門部会大深内支部（76人）
②ＪＡ十和田おいらせながいも担い手
　育成塾生（34人）

切いも講習会（講師：ながいもの達人、3/17）

栽培講習会にてながいもの達人が助言（7/4）

生産技術チェックシートを活用した個別指導（6/29）

## ２　ながいもの産地実態を踏まえた高品質安定生産による産地強化

【概要】
- 収量・品質が平均より低い生産者を主体に、個人カルテによりＪＡと連携し、個別指導を行った。また栽培講習会や採種ほ巡回等の場で、種子ほ場の管理、強風雨等の災害に対応した栽培技術等、ながいも栽培の基本技術の指導を行った。

【背景・課題】
- ＪＡおいらせ管内のながいも生産者の技術は全般的に高いが、収量・品質が低い生産者も見られるため、実態を踏まえた技術改善指導により、全体の高品質安定生産につなげる必要がある。
- 種子生産についての関心は薄い傾向があり、指導活動を強化する必要がある。
- 地力低下や過剰作付による収量・品質低下、強風雨等に対応した生産基盤とすることが重要となっている。

【普及指導活動の内容】
- ＪＡおいらせ本店とともに技術改善指導を行う生産者を選定し、個人カルテを作成して個別指導を行った。
- ＪＡが実施した部会員に対する耕種実態の調査結果をもとに課題整理を行い、冬季営農講座等の場で調査結果を説明した。
- 現地講習会や採種ほのウイルス感染株抜取作業等において、アブラムシ類を主体とした防除や隔離ほ場の設置指導、生産基盤の強化策として輪作体系、緑肥の生産を推進、土壌消毒作業が行われる時期に、ＪＡ、三沢市と合同で現地ほ場の巡回指導を行った。

【成果】
- 個別指導により、問題点が生産者毎に絞られ、効果的な理解につながった。
- 採種ほにおけるアブラムシ類防除やウイルス感染株抜取り等の指導により、ウイルス病防除の重要性が理解された。
- 災害に対応した技術指導の結果、大雨による穴落ちや表土流出等における事前及び事後対策の重要性への認識が深まった。
- 緑肥を推進した結果、地力維持等の効果への理解が深まり、ソルゴー類、エンバク等の緑肥面積が拡大した。

【対象者】
ＪＡおいらせやさい振興会ながいも部会（192名）

現地での講習会（7月14日）

採種ほのウイルス検査（9月20日）

坪掘調査による品質確認（10月31日）

# ３　大豆の安定生産と省力･低コスト技術の導入による収益性の向上

【概要】
- 生産情報の提供、栽培講習会の開催及び土づくり指導等により、適期作業と基本技術の徹底を支援したほか、大豆栽培技術改善策整理表の作成を通じて各経営体の課題を洗い出し、技術改善の取組を支援した。

【背景・課題】
- 大豆の収量は年次変動が大きく安定した所得の確保が難しいことから、経営体ごとの収量低下の原因を明らかにし、経営体の実態に合わせた技術改善策を講じる必要がある。
- 担い手の高齢化や一戸当たりの耕作面積の拡大により労働力不足が進行しており、将来を見据えた省力技術の導入が必要である。

【普及指導活動の内容】
- 生産情報紙「だいず通信」を発行し、生育調査結果に基づいた作業適期の情報を発信し、基本技術の徹底や適期作業の実施を支援した。
- ＪＡ十和田おいらせと連携した緩効性肥料の試験ほや、適正な栽植本数の確保に向けた実証ほを設置し、地域に合った栽培方法の確立に向けて活用した。
- 経営体ごとに大豆栽培技術改善策整理表を作成し、整理表に基づいた技術改善を提案するとともに、導入を支援した。
- 関係機関の連携強化を図ため大豆生産者座談会を開催し、上北地域の生産状況と大豆生産に関する地域の課題を共有した。
- ＪＡ十和田おいらせとの共催により管内の大豆生産者を対象とした集合研修を開催し、適正な栽植本数の確保や除草作業のポイント等を指導した。

【成果】
- 生産情報紙「だいず通信」は、経営体の作業計画に役立てられ、雑草防除や病害虫防除の使用薬剤や作業時期が見直され、栽培管理の適正化が図られた。
- 19経営体が大豆栽培技術改善策整理表を作成し、うち12経営体が栽植本数の見直しや病害虫防除作業の見直しに取り組んだ結果、技術改善に取り組んだ12経営体の平均収量は、取組前の令和２年と比較して43%向上しており、収益性が向上した。

【対象者】
①集落営農組織（６組織）
②大規模生産者（16戸）
計22経営体

改善技術の導入支援(8/2)

大豆生産者座談会の開催(2/19)

令和６年産大豆栽培講習会(3/4)

# ４　新規就農者の定着と経営管理能力の強化

## ～各種講座による基礎力向上、地域ぐるみの仲間づくり支援～

**【概要】**

- 新規就農者の生産技術や経営管理能力等の向上を目的とした講座を開催した。
- 重点指導対象者に絞った課題解決を支援した。
- ４Ｈクラブへの勧誘や農業士等のほ場を見学する視察研修への参加呼びかけなどによる、仲間づくりを支援した。

**【背景・課題】**

- 新規就農者の多くは農業に関する知識・技術が不足し、農産物の収量・品質が不安定で、経営感覚に乏しく、安定的な収益を確保できていない。
- 非農家出身の新規就農者の中には、身近な相談相手がなく、必要な情報収集ができずに離農するケースも見られる。

**【普及指導活動の内容】**

- ヤングファーマーゼミナールにおいて、「農薬の使用方法」や「土づくり」などの営農基礎講座、「小型機械のメンテナンス」や「農作業事故の発生状況」などの農作業安全研修、「パソコンを活用した複式簿記の実践」などの農業経営研修、このほか地域の先輩農業者やにんにく種苗生産会社等の視察など、幅広い研修を実施した。
- 支援の必要性が高いと考えられた新規就農者で普及指導員による伴走支援に合意した農業者を重点指導対象者に位置づけ、個々の課題解決に向けた支援を行った。
- 新規就農者の仲間づくりや地域ぐるみの支援を充実させるため、４Ｈクラブへの勧誘や農業士等のほ場を見学する視察研修への参加を呼びかけた。

**【成果】**

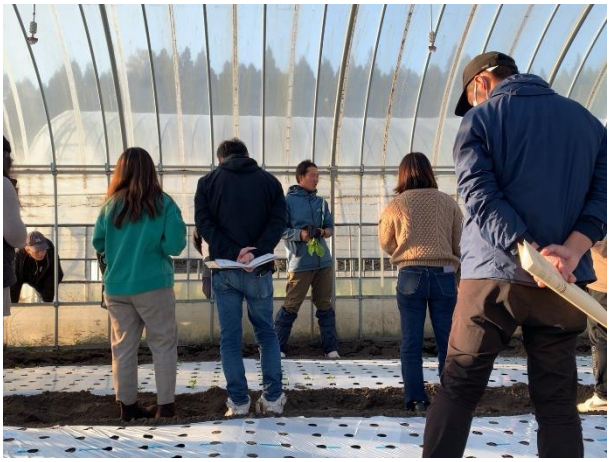
- ヤングファーマーゼミナールの開催により、受講者の基礎知識習得や経営管理能力の向上を図ることができた。
- 課題解決に取り組んだ重点指導対象者の多くが、栽培技術等の改善を図ることができた。
- 農業士等のほ場を見学する視察研修への参加をとおして、お互いに交流を深めることができた。

**【対象者】**

就農５年以内の農業者、農業次世代人材投資資金受給者（38人）、青年等就農資金借入者（20人）、法人雇用就農者、就農希望者、準備型研修受講者（４人）　ほか

にんにく視察研修（5/26）

重点指導対象者に対する巡回活動（6/28）



若手農業者視察研修（11/9）

# ５　次代に引き継ぐ上北集落営農活性化

【概要】
- 上北地域集落営農活性化協議会を設置し、集落営農組織同士の意見交換を行った。
- 集落営農組織の収益性改善等に向け、新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。
- オペレーター育成講習会を開催し、新たな農業用ドローンオペレーターが育成された。

【背景・課題】
- 管内の集落営農組織は、担い手不足や収益の悪化等により、６年間で６組織が解散・休止している。
- 将来の集落営農について検討するとともに、新たなチャレンジモデルの構築及び役員後継者や新しいオペレーターの育成を図るなど、持続可能な組織体制づくりを支援することが重要となっている。

【普及指導活動の内容】
- 集落営農組織間の連携を図るため、上北地域集落営農活性化協議会を設置した。
- 先進事例調査や活性化セミナーを開催し、組織間連携に向けた効率的な運営体制を検討した。
- 集落営農組織の収益性改善に向け、高収益作物の導入など集落営農組織の新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。
- 新たなオペレーターを確保するため、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催した。

【成果】
- 活性化協議会への参加を呼びかけたところ、１７集落営農組織が参加する協議会が設立され、組織間の連携の可能性等が話し合われた。
- モデル実証組織を公募したところ、３組織が取り組むことになり、実証に係る支援を行った。
- オペレーター育成講習会を開催し、新たな農業用ドローンオペレーターを５名育成した。

【対象名】
- 管内集落営農組織（34組織）

活性化協議会での意見交換（8/7）

にんじんの試験栽培（10/13）

オペレーター育成講習会（10/27）

# １　新規就農者による「夏秋いちご」の産地力強化

## ～　新規就農者の技術力向上による経営安定化　～

【概要】
- 下北地域における夏秋いちごの産地力強化を図るため、新規就農者の栽培技術向上とスマート農業を活用した多収・安定生産技術の確立に取り組んだ。

【背景・課題】
- 新規就農者の技術力向上
- スマート農業を活用した多収・安定生産技術の確立

【普及指導活動の内容】
- 夏秋いちごレベルアップ研修会を開催し、ハダニの天敵チリカブリダニによる防除や適正な栽培管理、萎黄病対策について指導した。
- 北海道先進地視察研修では、採苗や販売方法について情報収集した。
- 冬期にミニ勉強会を開催し、新規就農者の課題に合わせたテーマで基本技術の講習を実施した。
- 個別巡回により、生産者各々の課題に指導・対応した。
- 自動施肥かん水装置の導入ほ場にスマート農業試験展示ほを設置。生育・土壌診断に基づく施肥管理を検討した。
- 管内の新品種試作ほ場を予備調査し、研修会等で情報提供した。

【成果】
- 研修会や勉強会、個別巡回等の徹底により、適切な栽培管理を行う生産者が増加した。
- 天敵の使い方、新品種の情報等が共有され、天敵チリカブリダニは作付面積の約50％で導入された。
- 国産需要の高まりを追い風に、令和３・４年は販売額が１億円を突破したが、５年は高温の影響により大幅に減収した。
- 自動施肥かん水システムの試験展示ほの成績をとりまとめ、「自動施肥かん水装置を活用した夏秋いちご土耕栽培マニュアル」を作成・配布し、適正な管理方法について情報が共有された。

【対象者】
ＪＡ十和田おいらせ野菜振興会むつ支部いちご部会（20名）、新規就農者10名（重複あり）

夏秋いちごレベルアップ研修会（５月）

ミニ勉強会　栽培基礎・高温対策（２月）

レベルアップ研修会in北海道（10月）

# ２　下北地域を支える新規就農者の経営安定化

**【概要】**

下北地域の新規就農者は、夏秋いちごを中心に増加しているが、非農家からの新規参入者が多く、農地や機械・施設等の確保が困難な状況であることから、経営資産と農業所得の確保に向けた地域ぐるみでのサポート体制を整備する。

また、今後も新規参入者の増加が予想されることから、就農前から下北地域の農業の基礎知識等を提供し、就農の円滑化を図る。

**【背景・課題】**

・サポート体制の強化等による新規就農者の定着

・下北地域の農業知識習得等による円滑な就農促進

**【普及指導活動の内容】**

ア　就農に必要な経営資産の確保支援

(ｱ)「新規就農者『農業力』強化推進会議」の開催

(ｲ)新規就農者に適した農地のリストアップ

イ　所得確保につながる栽培技術と経営知識の習得

(ｱ)新規就農サポートチームによる個別巡回指導

(ｲ)新規就農アドバイザーと連携した相談活動

(ｳ)新規参入者に対する相談・巡回指導

ウ　就農前段階から下北農業の情報提供

(ｱ)「しもきた新規就農ハンドブック」を活用した相談活動

(ｲ)「しもきた新規就農ハンドブック」の改訂版発行

**【成果】**

ア　推進会議を開催し、管内の新規就農の現状と課題等を協議した。また、８農地について、今後、農地取得希望の新規就農者に情報提供することとした。

イ　新規就農サポートチームによる個別巡回指導をとおして、就農状況や経営上の課題を把握した。

　また、農業経営士２人に「新規就農アドバイザー」を依頼し、新規就農者の資質向上につなげた。

ウ　就農相談において「しもきた新規就農ハンドブック」を活用し、下北地域の農業や新規就農への理解促進を図った。

**【対象者】**

農業人材力強化総合支援事業活用者（10人）、新規就農者育成総合対策事業活用者（3人）、認定新規就農者、新規就農者、就農希望者

新規就農サポートチームによる個別巡回指導で新規就農者の経営状況を把握

Ⅳ　先輩新規就農者からのアドバイス

1　佐藤（さとう） 潤（じゅん）・ひと美（ひとみ） 夫妻（むつ市）［平成 28 年就農］

農業を始めたきっかけを教えてください。

農業に元々興味があり、農業系の短期大学にも通っていました。

大学卒業後、しばらく地元を離れて働いていましたが、父親が病気で倒れたため、地元に戻ることになり、そのタイミングで農業を始めました。

初めは露地野菜をやってみようと考えていたのですが、農業普及指導員からの勧めもあり、研修先で学んだ夏秋いちごを栽培することにしました。

新規就農で苦労した点を教えてください。

農地を探すことに一番苦労しました。町内会の方に相談したところ、ご主人が亡くなられて使わなくなったハウス付きの農地を紹介してもらい、借りることができました。

これまで農業をやってきて感じたことは、夏秋いちごに限らず、いろいろな作物の栽培に早いうちからチャレンジして選択肢を広げるのもいいのではないかと思います。

農業の魅力を教えてください。

子どもの教育や遊び、体験の場になることです。

また、自分たちが作ったものを子どもが食べたときに、スーパーで買ったものとは違うと感じてくれることがうれしいです。

ほかには、自分のイメージどおりに作物が育ち、収穫量を上げられたときは、達成感を得られます。

将来構想について教えてください。

第２、第３の農場を作り、経営面積を拡大していきたいです。

また、農業でたくさん稼いでいきたいというよりも、いろんな作物を作ることにチャレンジしていきたいと思います。

「しもきた新規就農ハンドブック」では、先輩新規就農者からのアドバイスも掲載

## ３　新しい生活様式に対応した「しもきたマルシェ」の確立と販売力の強化

【概要】
- 「しもきたマルシェの会」の運営体制の強化のため、マンパワーの発掘を進めるとともに、SNS等の活用や商品企画をとおして販売力・PR力の向上を図り、新しい生活様式に対応した産直イベント「しもきたマルシェ」の持続的発展を支援した。

【背景・課題】
- 令和３年度から下北地域の若手農業者等有志を会員とする任意団体「しもきたマルシェの会」が「しもきたマルシェ」を運営しているが、イベント企画・運営力や組織力が弱いため、会の運営体制と販売力・PR力の強化を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】
- マルシェ開催や運営会議等の開催を通じて、会の運営体制強化と販売額向上に向けた意識啓発を図った。
- SNS等を活用した情報発信力の強化に向け、SNSや消費者への訴求力を高める手法等をテーマとした研修会を開催した。
- 商品企画をとおしたPR力の向上に向け、異業種と連携したコラボギフト（加工品等）の検討・開発に取り組んだ。

【成果】
- マルシェ運営責任者としての当事者意識が醸成され、会の運営に積極的に取り組む姿勢が見られた。また、下北管内市町村等が主催するイベントに出張マルシェとして参加したことで、地域団体等との連携が強化された。
- ５～10月に月１回ペースでのマルシェ開催、会員が企画・提案したイベント企画を毎回実施したことで、地域住民等への認知度が高まり、来場者数、出店舗数、店舗当たり・１回当たりの平均販売額が増加した。（R2：27千円→R5：33千円）
- 研修会等の開催により、インターネットやSNS活用のポイント、商品POPの制作技術、写真の活用方法などが習得された。
- ギフトの開発には至らなかったが、「下北ワインソフトクリーム」、「そばいなり」等、下北産食材を活用した商品が多数開発された。

【対象者】
しもきたマルシェの会（23店舗）、新規就農者・就農希望者（18名）

令和５年度１回目しもきたマルシェ（5/14）

第１回下北地域情報発信力向上セミナー（9/25）

出張マルシェin佐井村おさかな祭り（10/22）